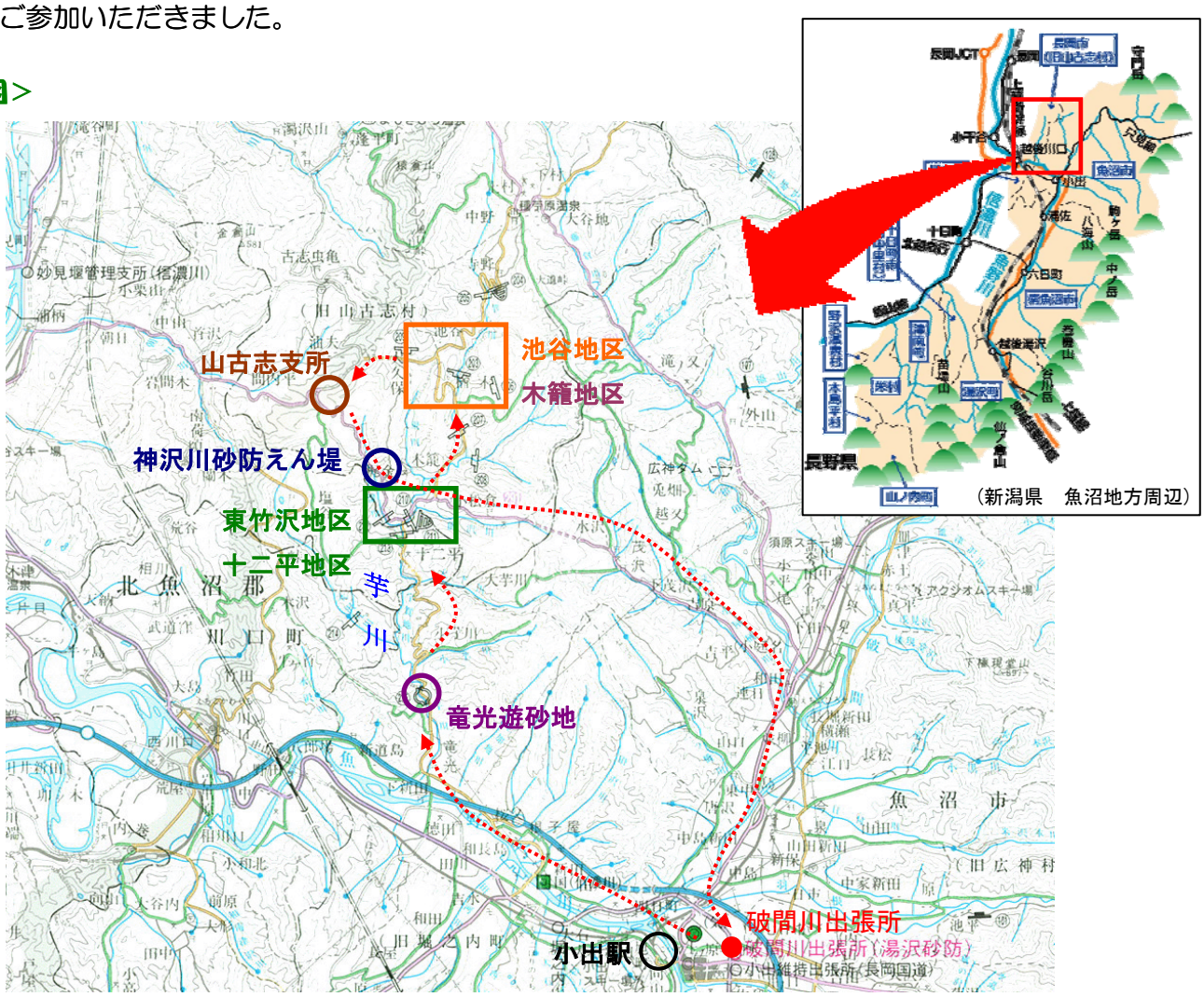
平成 19 年度

湯沢砂防女性モニターレポート　第3回見学会

国土交通省湯沢砂防事務所　平成１９年１２月発行

新潟県中越地震から３年余りが過ぎた 11 月 20 日火曜日、芋川流域の砂防工事や地域の復旧状況について、一般生活者の目から見た感想やご意見を頂くため、女性モニター見学会を行い、６名の方にご参加いただきました。

＜位置図＞



＊＊プログラム＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

13:10　小出駅出発

13:30　竜光遊砂地着

十二平、東竹沢地区砂防施設見学

木籠地区集団移転地、池谷闘牛場見学

山古志支所

下之沢地すべり対策地、神沢川砂防えん堤見学

小松倉、中山隧道見学

16:30　小出駅着、解散

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

説明は流域対策課の丸山課長から。

女性モニターでは、これまで地震から約１年後の平成１７年秋（モニター見学会）、約２年後の１８年秋（魚沼自然塾）にも芋川流域を訪れており、今回の参加者には初めての方と２度目の方がいらっしゃいました。

竜光遊砂地

芋川下流竜光地区に被害を及ぼさないための最後の砦が、この施設です。遊砂地は、大きな出水の時に一時的に土砂を含んだ水を溢れさせ、水の勢いを弱めて土砂を堆積させるしくみになっています。

竜光遊砂地

竜光遊砂地を見学して～女性モニターアンケートより～

- 以前完成前の状態を見学しましたが、その時の説明が今回の見学で分かりました。あらためて、すごい地震だった事もわかりました。
- 遊砂地はどうしてこのような作りになっているのか、初めて知りました。最後の砦だと言うことが理解出来ました。
- 説明を聞き、大災害の土砂を防ぐ方法に適しているのがよく分かりました。

写真と現地を見比べながら、丸山課長から説明がありました。

十二平地区、東竹沢地区の砂防施設

十二平地区（小千谷市）は地震で崩れ落ちた土砂が道路を塞ぎ、孤立していました。上流からの土砂流出を抑えるため、コンクリートタイプの砂防えん堤を施工し、斜面対策工事などを行いました。

東竹沢地区（長岡市）は、地すべりによって一番大きな河道閉塞が起きた所で、地すべり土塊の下流に２基の砂防えん堤を施工し、斜面対策を行いました。

十二平砂防えん堤

芋川ではさまざまな新工法の砂防えん堤が施工されていることを説明する丸山課長

地震直後はどのようになっていたのかなどの質問がありました。

東竹沢地区。工事用仮水路を流れていた川を間もなく砂防えん堤の水通しに付替えます。

十二平、東竹沢地区を見学して～女性モニターアンケートより～

- すでに現時点で大量の土砂が堆積されているのを見て、砂防工事の必要性を痛感しました。
- 崩壊で発生した土砂を利用して砂防えん堤をつくることを聞き驚きました。また法面対策など、緊急的工事にもかかわらず、まわりの景色との調和も求められるなんて驚くばかりでした。
- 工事前の見学はしていませんが、植生工の緑も不自然ではなく景観に配慮されていると感じました。
- 地震から３年目であんな立派なえん堤ができるんですね。どれほどの人間が関わったのかと思うと頭が下ります。

木籠地区

木籠地区では 25 戸あった家屋のうち 14 戸が河道閉塞のため水没しました。現在も東竹沢の砂防えん堤堆砂域（土砂が貯まる箇所）に数戸がまだ残されています。脇では造成された土地に住宅の建設が進んでいます。

水没した家屋は現在も残っています。家屋がある場所には、地震直後の説明が書かれた看板が設置されています。

集落の移転地には、次々と新しい家が出来ていました。

集団移転地など見学して～女性モニターアンケートより～

- 水没した家屋を見学して、胸を打たれる切ない気持ちになりました。復興は終わりに来たと思っていましたが、山古志の方々はこれからですね。
- 本当にたくさんのえん堤が出来、また今も工事を行っていて、ここまで復興しているとは思いませんでした。うまく自然を生かし、残し、村を守ってほしいと思います。

池谷闘牛場

山古志の文化の一つにあげられる「闘牛」。山古志に３箇所ある闘牛場の中で、池谷地区の闘牛場を見学しました。被災前と同様、年間８回、開催しているとのことです。

池谷地区にある闘牛場。地震後減っていた牛の数も、現在はかなり増えてきました。

住民の方が設置した木道には、山古志を題材にした映画の出演者からの寄せ書きもありました

闘牛場などを見学して～女性モニターアンケートより～

- 闘牛を通して、地域の人たちの復興への意気込みを感じ、頼もしく思いました。
- 大災害があったにしても、又、ここに戻りたいという山古志の人達の気持ちが伝わりました。ここの自然はとても美しかったです。

長岡市役所山古志支所

支所の駐車場には、地震から３年後の祈りを込めた、復興の鐘があります。

神沢川砂防えん堤

東竹沢地区で右から芋川に合流する神沢川。この上流は地すべりや崩壊が著しく、山古志トンネルを掘って国道がつけかえられたほどです。流れ出す土砂を抑えるため設けた砂防えん堤は鋼製セルタイプで、セルの中には東竹沢地区で発生した土砂を詰めています。

神沢川砂防えん堤

＊モニターさんからの質問＊

Ｑ：緊急的に作った砂防えん堤は、いつまでもつの？

Ａ：基本的には 100 年を目安に作っています。ただ、新しい工法ということもあり、モニタリングを続けています。

Ｑ：神沢川砂防えん堤には水抜き穴がないの？

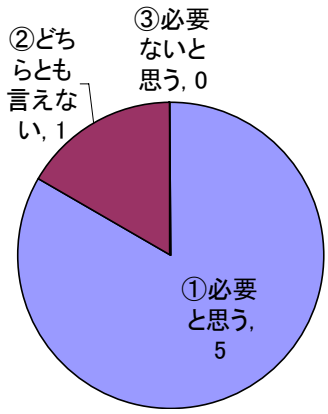
Ａ：土砂の粒径が大きいところは水抜き穴で排水しますが、芋川の場合、流れてくる土砂の粒径がものすごく細かいため、穴をあけて水を抜くと土砂も流れてしまうので、芋川流域ではクローズタイプにしています。

熱心に質問する女性モニター

芋川の砂防施設を見学して～女性モニターアンケートより～

- ３ 年の月日と言っても雪が降る季節は工事が出来ないなど、本当に工事できる時期は短いと説明がありました。その中でここまで復興している現状に驚きです。
- 各場所により最適な工法で行われている事がわかりました。
- 今年度の見学の中で一番心に残りました。砂防が生活を守るという事が一目で分かりました。

砂防事業は必要と思いますか？
（回答数 6）



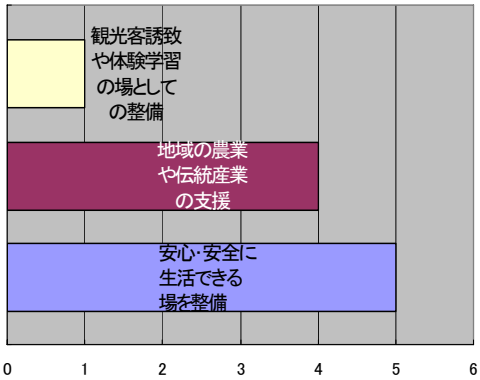
①の理由

- 必要ないとはどうしても思えません。あの現場を見れば、特別に思います。
- この事業がなされなかったら大きな二次災害が起こると思いました。
- 下流で暮らしておられる方々の安全を守って頂きたい

②の理由

- 住みなれた村を出ていかれた方が多いというのも気にかかりました

砂防事業が地域の貢献として行うと良いものは？（複数回答可）



湯沢砂防より

今回は現場が遠く、室内での意見交換の時間がとれませんでした。次回は今年度の女性モニター最終回になりますが、芋川の砂防事業のことや、今後の情報発信のあり方など、改めてご意見を伺いたいと思います。また、今年度の女性モニターのまとめとして、１年間砂防事業をご覧いただいた率直な感想や納得できないことなどもございましたら大いに意見をいただきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

お問い合わせ先：国土交通省 湯沢砂防事務所 調査課　　TEL：025-784-2073　　FAX：025-784-2441
〒949-6102 南魚沼郡湯沢町大字神立 23　ホームページ：http://www.hrr.mlit.go.jp/yuzawa/